

經濟論叢

第160巻 第2号

IMF 設立時の「制限されたりベラリズム」……本 山 美 彦 1

味の素の国際マーケティング(2)……太 田 真 治 17

新しい空港整備とその経営方式への転換……松 本 秀 暢 35

日本石鹼業界における初期
「花王石鹼」のブランド戦略……齊 木 乃 里 子 58

共同研究開発と寡占的競争……崔 康 植 74

学 会 記 事

平成9年8月

京 都 大 学 経 済 学 会

【学会記事】

デビッド・コーテン博士講演会

1997年4月25日（金）の10時半から12時半まで、経済学部会議室でデビッド・コーテン博士（Dr. David C. Korten）の特別講演会が開催された。NGO活動に関心をもつ学外からの参加者もあり、通常の学術講演会とは異なった愉快的な会合になった。

最近、経済発展や開発政策の領域において、政府から独立した国際組織（ノン・ガバメンタル・オーガニゼーション：NGO）の役割が注目され始めている。こうした組織は、援助大国の政治的・経済的利益に縛られる既存の国際機関と異なって、強権的な政府による強引な経済開発や、多国籍企業による営利主義の開発を批判しうる、国際的な市民社会（公共圏）の機能を果たすのではないかと期待されている。今回、特別講演をおこなったコーテン博士は、長年開発エコノミストとして活動した後、一転、NGO「民衆中心発展フォーラム（People-Centered Development Forum）」を主催するようになった人である。著書『グローバル経済という怪物』（西川満監訳、シュプリンガー・フェアラーク東京社刊行）でも、自分の経験も交えながら、従来の開発政策のアプローチを批判している。講演では、民衆の自発性を無視した現在の開発の問題点とともに、こうした批判的NGOの活動の手法も紹介された。とくに政府や多国籍企業が秘密裏に国際協定を準備していることに対して、内部資料の入手・公開を含めた活動をおこなっているというのは面白かった。いまや市民間の国際的ネットワークが、大組織のバリアーを破りつつあるのではないか。

今回の講演では、シュプリンガー・フェアラーク東京の堀美波さんが同道されて通訳を勤められた。有意義な講演会が実現したことについて、堀さんと同社に感謝します。

（八木紀一郎）